

第 224 回 都市懇サロン レポート	<p align="center">「都市計画のミライを考える」 デジタルトランスフォーメーションとフィンテックを中心に 近未来のまちづくりを考える</p>		
講 師	野口 秀行 (ノースアジア大学 特任教授)	開 催 日	平成 31 年 3 月 12 日(火) 18:00~20:00
講 師 プロフィール	<p>昭和 25 年熊本県生まれ 九州大学 経済学部卒業(昭和 49 年) 昭和 49 年日本開発銀行(現:日本 政策投資銀行)入行、本店地方開発 部企画担当副長、松山事務所所長 を歴任 平成 11 年度より(株)日本インテリジェ ンスト常務取締役開発総合研究所所 長、東京大学工学部、法政大学大学 院非常勤講師、地域政策研究セン ター主任研究員を経て平成 17 年 7 月 に独立し、野口秀行事務所代表。 不動産投資金融、技術管理(MOT)、7 7 経済、地域経済政策など幅広い 分野で活躍 現在ノースアジア大学特任教授のほか 東京大学大学院、東京工業大学大 学院の非常勤講師等を兼任</p>		
お話の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・IoT やビッグデータ、人工知能等の革新により、イノベーションが指数関数的に成長している。VR による第 4 次産業革命の最中にある現在では経済や金融における仕組みの過渡期であり、宗教・文化・価値観においても多様性が求められている。 ・まちづくりにおける資金調達も「事業の質」により世界中から調達できる仕組みが整っている。そのためには、「事業に経済的な価値を持たせながら考えていくべき」とし、出口戦略から事業の組立てを金融視点でも考えるべきである。また、地方には資金があるが活用できる人がいないため、コミュニティ(地権者)に自らリスクを取る覚悟を持たせる点も重要な視点となる ・今後のまちづくりの前提は「人が住む」ということ。IT は 24 時間サービスを提供してくれる点がどこでも仕事ができる環境を作っており、マンハッタンでは容積率の緩和により高層のオフィスビルと低層の住宅街が混在できている。 		
意見交換 の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創生 ICO による事業資金を世界中(マクロ)から調達するために肝について。 →地道な努力とプロの技術によるプロジェクトの質により投資額が変動する。 ブランド力は作る事ができればクリエイティブな発信に繋がる(くまものデザインや乳頭温泉の不便さ=非日常性など) ・技術革新による「いいミライ」と「わるいミライ」について →人間よりも一歩も二歩も先を知的に見据える AI に制御が効かなくなると考えられており、倫理委員会が発足された。利便性の向上を機会に委ねた結果のパラドックスではあるが、近い将来にミライの選択を人間に求められる。 ・地方には人財がないという声を多く聞く。 →地方特有の優位な人材を潰しにかかるころは衰退する。多様性は自由な発想から生まれることを理解していない人が多い。 		
記録者の ひとこと	<p>IT の発達によりまちづくり事業へのアプローチも変化への対応が迫られている時期であり、有効活用できる知見や技術力がさらに求められると感じた。</p> <p align="right">《都市懇サロン運営部会 委員 徳永 将之》</p>		